



# 桐生ロータリークラブ週報

国際ロータリー第2840地区 2025-2026年度 国際ロータリーのテーマ

## 2026年

Unite for Good

R.I 会長 フランチェスコ・アレツツォ

### よいことのために 手を取りあおう



善意というものがないなら  
ロータリークラブは唯の社交クラブだ。  
職業は金儲けのためでしかなく、  
社会奉仕というも施しにすぎず、  
国際奉仕は外交以外の何ものでもない。

パストガバナー 前原 勝樹

会長 田中 一枝 幹事 北川 貴久

クラブ会報・情報委員会 片山翔平・寺内久和・青野哲也

### 1月19日号

## 第3311回例会

(12月15日(月)第2例会)

1. 点鐘
2. ロータリーソング斉唱
3. 来訪者紹介
4. 出席100%表彰
5. 会長の時間
6. 幹事報告
7. 委員会報告
8. 卓話  
「地球と人を健康にするための研究・開発」  
群馬大学副学長  
大学院食健康科学研究科教授  
板橋 英之 様
9. 点鐘

### ようこそビジター

〈卓話者〉群馬大学副学長・大学院食健康科学研究科教授 板橋 英之 様  
〈米山奨学生〉劉 躍 君

### 出席100%表彰

青木 貴子君 7回



### 米山奨学金授与

劉 躍 君



### 会長の時間

#### 【報告】

- ・12/1 例会終了後、定例理事会
- ・12/2 群馬大学理工学部留学生との懇談会  
会長、幹事
- ・12/4 桐生4RC 会長幹事会  
会長、幹事、森直前ガバナー
- ・12/6 ガバナー諮問委員会  
森直前ガバナー、松島財務委員
- ・12/8 11/5 桐生4RC 合同夜間例会に振替の為、休会
- ・12/11 新会員セミナー 午後6時30分 たつ吉

### 【予定】

- ・12/20 こども新聞表彰式 群馬大学 会長
- ・12/22 家族合同忘年クリスマス会  
点鐘:午後6時30分  
場所:桐生商工会議所ケービックホール
- ・1/4 桐生倶楽部新年互例会 会長
- ・1/5 みどり市新年賀詞交歓会 会長
- ・1/7 桐生商工会議所新春互例会 会長
- ・1/9 定例理事会、職業奉仕委員会 家庭集会

### 幹事報告

- ・国際ロータリーより、ロータリーレートのご案内です。  
12月=156円です。
- ・ガバナー事務所より、年末年始休暇のお知らせが届いております。
- ・桐生西、桐生赤城の各RCより週報到着。
- ・次週22日(月)は、点鐘18時30分、桐生商工会議所ケービックホールにて、家族合同忘年クリスマス会となりますので、お間違えのないようお気をつけください。次回例会は、1月19日(月)新年初例会となります。

### 委員会報告

#### 出席委員会

本日の出席(令和7年12月15日)  
総員70名:出席37名  
11月16日修正出席率:75.0%

## ☺ ニコニコボックス

田中一枝君、森末廣君、須永博之君、吉野雅比古君…板橋先生をお迎えして／松島宏明君、水越稔幸君…板橋先生お話楽しみにしています／牛腸章君…S.A.A さんご苦労様です。BGM を聞きながら久しぶりに楽しい食事でした／藤田恵二君…社会奉仕委員長退任／木村洋一君、藤田恵二君、荒川望君…誕生祝／青木貴子君…出席100%。

## 卓 話



群馬大学 大学院理工学府  
食健康科学研究科

板橋 英之様

群馬県桐生市生まれ。群馬大学工学部卒業。筑波大学大学院博士課程修了。理学博士。筑波大学助手、群馬大学助手・助教授を経て 2004 年より群馬大学工学部教授。2009 年から 2013 年工学部長・工学研究科長。2021 年から群馬大学副学長。

研究紹介 テーマ W-Sphinx を用いたアルツハイマー型認知症の予防・改善

○神話のスフィンクスから命名

W-Sphinx(ダブルスフィンクス)とは Water solubilized Sphingolipid(水溶化スフィンゴ脂質)から命名したもので、水に溶けやすくして

分散性を高めたスフィンゴ脂質を意味します。図1のように、スフィンゴ脂質が親水性部分に包まれた構造をしています。

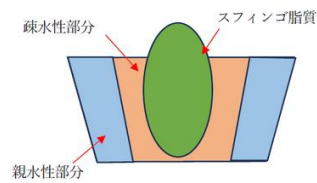


図1 W-Sphinxのイメージ図

スフィンゴ脂質は、脳から発見された脂質で、脳での

働きが謎に満ちていたため、旅人に謎かけをした神話のスフィンクス(Sphinx)からスフィンゴ脂質と名付けられました。スフィンゴ脂質とは、あまり聞き慣れない物質ですが、実は最近大変注目されています。

○アルツハイマー型認知症の予防・改善効果

その理由は、北海道大学で行われた研究によって、スフィンゴ脂質にはアルツハイマー型認知症の原因と考えられているアミロイドβの蓄積を抑える効果があることが報告されたためです。この研究によると、認知症モデルマウスにスフィンゴ脂質を経口投与すると脳内のアミロイドβが減少すると共に、認知機能が改善することが分かりました。また、人を対象にした臨床試験では、スフィンゴ脂質を6ヶ月間摂取することで、血液中のアミロイドβが減少することが報告されました。従って、スフィンゴ脂質を継続的に摂取することで、アルツハイマー型認知症の予防・改善が期待されます。

○群馬特産“コンニャク”から抽出

実はこのスフィンゴ脂質、群馬県とは大変縁のあるものなのです。それは、この物質がコンニャク芋に多く含まれているためです。ただし、通常のコニャクは、セイコと呼ばれるコンニャク芋の中心部分から作られているため、スフィンゴ脂質はほとんど含まれていません。スフィンゴ脂質は、トビコと呼ばれる、通常は捨てられてしまう外側の部分に多く含まれています。従って、トビコから抽出したスフィンゴ脂質を製品化できれば、廃棄物の有効利用に繋がるだけでなく、群馬の特産品が人の健康に大きく貢献できることとなります。

○群馬大学研究チーム結成

群馬大学では、2025 年度から大学院食健康科学研究科を設置しました。ここでは、農産物に含まれる成分やその加工・摂取方法が人の健康にいかに関与しているかを研究していくことが一つのテーマとなります。今回のスフィンゴ脂質の研究では、食健康科学研究科と医学系研究科の共同研究チームを立ち上げました。このチームでは、トビコから抽出したスフィンゴ脂質の効率の良い摂取方法を検討しており、水溶化したスフィンゴ脂質(W-Sphinx)に注目しています。現在、図2に示す小腸細胞を使った実験を行っており、これからアルツハイマー型の認知症モデルマウスを使った実験や臨床試験を通してその優位性を実証していきます。

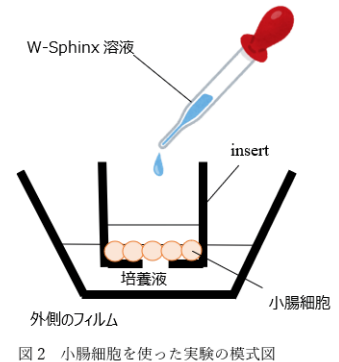


図2 小腸細胞を使った実験の模式図

○将来は創薬も視野に研究

この研究チームでは、創薬も視野に入れて研究を展開していく予定です。ただし、それには長い年月と大きな予算が必要になるため、まずはサプリメントとして提供することを計画しています。現在、W-Sphinx を特殊な小型カプセルに入れて、経口摂取後に腸内でスフィンゴ脂質が放出される仕組みについて検討しています。就寝前に摂取することで、より高い効果が得られるものと考えています。

○おわりに

神話の世界ではスフィンクスの謎が解けて多くの人々が救われました。このプロジェクトでは、食健康科学に関係する教職員・学生でチームを組んで、現代版スフィンクスの謎を解き、多くの人々を幸せにしたいと考えています。